

開催日	7月26日(火)	会場	阿寒小学校 体育館
時間	18:00~18:50	参加人数	15名
計画位置付け	令和11年度 義務教育学校(阿寒小学校・阿寒中学校)		
質問	<p>Q1 学校の形が変わることは地域にとって大きな問題であるが、今回の地域懇談会をどのような形で周知したのか。私は、中学校の学校だよりを見て参加したが、会場を見ると参加者はそれほど多くなく、大事な内容なのに保護者もそれほどいない。他の会場の参加状況はどうか。阿寒湖義務教育学校になって1年だが、そこでのメリットは把握しているのか。子ども達や父母一人一人から阿寒湖義務教育学校のメリットに関する意見を聞いているのか。また、子ども達や父母にアンケートは実施しているのか。</p>		
回答	<p>A1 地域懇談会の周知は広報くしろ、新聞報道、LINE、連合町内会のチラシ、学校を通じてお知らせをしており、LINE配信では6月の末に全体のスケジュールをお知らせした後、週の始めに今週の日程・会場として週ごとに開催会場をお知らせした。参加者については多くの会場は20名前後であるが、多いところでは約60名や40名という会場もある。昨日の音別では約30名ほどのご参加を頂いた。メリットについて、異学年の交流について校長・教頭から話を聞いており、後期課程の生徒が、前期課程の低学年の子を労わり、登下校の面倒を見たり、声かけをするなど思いやりの気持ちを醸成することができている。また、前期課程の子にとっては、上級生の姿を間近でみることにより、上級生のようになりたいという憧れを持つ様になった。各行事等では、各学年にリーダーシップを取れる工夫を行っており、5年生と8年生が合同で実施する宿泊研修では、5年生が企画をして8年生に提案する、運動会では1年生が企画した競技を9年生が実際に取り入れて行うなど、学校全体による様々な工夫をしており、それが上手く機能していると聞いている。子ども達や保護者に対してのアンケートは行っていない。</p>		

<p>質問</p>	<p>Q2 子ども達の人数が年々減っていることは事実であり、寂しい感覚ではあるが、市教委の説明の中で複式学級への捉え方には疑問である。私は複式学級や小中併置校にも勤務してきたが、確かに内容の違う学習を1教室で行わなければならないことはあるものの、先輩も含め何十年と複式教育の研究を積み重ねてきた中で、子ども達が自ら学ぶスタイルを作り上げてきた。学校教育で今求められている子ども達が自ら学びに行くということの先駆けだと思っている。市教委の説明では、複式は良くないので学校のシステムを変えて、それを回避したいとの主張に聞こえたが、小規模校で勤務してきた人間にとっては、これまでの努力を否定されているように受け取った。単式で学べる方が良いかもしれないが、仮に複式になったとしてそれが駄目なことなのか。また、私が今回の話を聞いたのは3月の報道で、この計画が決まるのが12月とのことで、このスピード感は異常ではないか。本来なら、学校の形を変えるという問題に関して、地域の声を聞き取って進めていくかたちが真っ当な姿だと思っている。しかも、この計画が全市的に行われるということで、地域懇談会を開いてはいるが、我々の意見をもとに計画を作っていくということではなく、市教委の考えに我々が理解をして下さいというスタンスでいる様に感じる。阿寒地区は子どもの数も減っており、こうした課題が身近なものになっているのは確かだが、保護者がどういった学校に子どもを通わせたいかという思いは汲んだのか。また、今年から始まったコミスクを通して意見を集めたのか。確認だが、今は全市一斉で義務教育学化を進めるということが基本になっているが、これからの話し合いで、地域ごと或いは校区ごとに対応が変わっていく可能性もあるのか。</p>
<p>回答</p>	<p>A2 道内は複式学級が多いので、複式学級の指導について色々なノウハウがあることは理解しているが、複式学級を回避したいという保護者の方は多くおり、釧路市としても可能であれば複式学級を避けたいと考えている。白紙の状態では議論はできないので、たたき台というかたちで計画を示して説明をしており、この計画は、6月に議会にたたき台を報告した後、地域懇談会で内容を説明をしているが、この協議自体は昨年度から始めている。今後は、地域懇談会で頂いた意見を踏まえながら計画の素案を作っていく、再度、地域に向いてその素案についてご意見を頂戴する機会を設ける予定であり、併せてパブリックコメントも実施していく。そこで頂いた意見を再度踏まえながら成案の策定に向けて進めていく。今回の計画の方針である「小中連携・小中一貫教育を進め、施設一体型の義務教育学校を設置する」というものは変わらないが、その他の事項については今後検討する。</p>